

洞爺村議会議長

佐々木良一



先人各位へ心より感謝を

今年の冬は例年のない寒波と大雪に見舞われました。まだ残る白銀の世界の中で、虻田町との合併により閉じ行く洞爺村の歴史、時の移りを静かに見つめております。

明治二十年五月、三橋政之団長以下七十六名の皆さんが一の原、二の原の開拓に当たって以来、先人の血と汗の結晶として今日の洞爺の大地が拓かれて来ました。

大正九年六月、虻田村より分村して以来、その時代時代の村民の皆様の懸命の努力により、洞爺村としての歴史が一步一歩着実に刻まれて来ました。三月二十七日虻田町との合併をもって、八十六年の

洞爺村としての歴史に幕を下ろすことになりましたが、今までの洞爺村を築いて来られたすべての皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。本来にありがとうございます。

新洞爺湖町の発展を願う

そして、又今年には四小学校が統合して一つの小学校になります。教育の歴史にとっても大変大きな転換の年になりました。特に大原、香川、成香の皆様にとっては開拓以来地域の中心として、活動の拠点として、心の拠り所としての学校が地域からなくなるという二重の激変の年を迎えております。

平成の全国的な大合併の動きは、明治の廃藩置県制の施行以来、百三十五年その仕組が変わらなく来たことの時代に対する閉塞感、近代社会の中で行政の仕組、あり方そのものが問われる大きな国家の変革の中で、地方自治体は今まさしく、大波のうねりの中

に置かれている状況下にあります。このような中で洞爺村は虻田町との合併を選択し、新たな洞爺湖町へ期待を込めた出発となりました。

洞爺村と虻田町はそれぞれにない特徴を持っております。お互いにない特徴を生かし合った町づくり、地域の発展が期待されます。

今自治体は自己判断、自己決定と言われますが、今まさに自分達の地域は自分達で作って行くのだという「住民自治」の力が求められていると思います。この町村合併を住民自治元年として、新町において作られる地域審議会や自治活動を通して住民の皆様方の力強い活動を心より願います。

「住めば都でない。都にして住むのだ。」という赤木三平氏の言葉を想起しながら、私も議員も一年余の在任特例の中で新しい町づくりのため全力で頑張ることを誓いながら、新しい洞爺湖町の発展を願う洞爺村閉村にあたって

のご挨拶といたします。

